

7 3 1 跡地に謝罪と不戦の碑

石 金楷

(ハルピン市日本残留孤児養父母連絡会 事務局長)

2011年7月9日、ハルピンの731部隊跡地で、日本の民間団体〔A(核兵器)B(細菌兵器)C(化学兵器)企画委員会〕が発起人となり、資金を集めて建立した「謝罪と不戦平和の碑」の開幕式が行われた。ハルピン市残留孤児養父母連絡会の胡曉慧名誉会長と石金楷事務局長が招かれて出席した。この席で侵略日本軍731部隊罪証陳列館の金成民館長が挨拶の中でこう述べた。

数字が犯罪の代名詞に

「731という、当時、日本軍で普通の番号として使われた数字は、今や世界公認の日本軍犯罪の代名詞となった。長年、日本の有識者と私たちが共に努力し、731遺跡の保存事業を進めてきた。謝罪と不戦平和の碑の建設は大きな現実的意義と深い歴史的意義を持つものである。日本のABC企画委員会は長年、中日平和友好活動に努め、長い間731遺跡の保存事業にかかわり、日本人民の歴史を重んじ、正義を守り、人権を尊重し、真理を守る責任と使命を、身をもって示してきた。

日本ABC企画委員会代表の矢口仁也先生は挨拶の中でこう述べた。戦後66周年にあたりこの碑が建立され、ここで私たちが表したいのは、731部隊の虐殺に会われた方に謝罪するだけではなく、日本の侵略戦争の犠牲になったすべての犠牲者に対する謝罪です。私達はこれを新しいスタートとして、中国の被害者が利益を得、友情を深め、平和を築き、子孫の素晴らしい未来のためにたゆまぬ努力をしなければなりません。

被害者家族を代表して朱玉芬女士はこう挨拶した。日本のABC企画委員会などの団体は民間でカンパを集めるという形で「謝罪と不戦平和の碑」を建立し、加害国の市民を代表して被害に遭われた中国人民とその家族に謝罪した。私は大きな慰めを感じた。私たちの肉親が殺されたここでこの碑を建てたことは、彼らにとって一番の慰めとなるだろう。2度と戦争がないこと、世界が永遠に平和であることをここからお祈りする…。

泣き伏して立てず

式典の間、矢口仁也先生は何度も涙を流し、被害者家族遺族、朱玉芬女士が話し終わると、地面に伏し、謝罪の碑に向かって膝まづいて拝んだまま起き上がれなかった。

「謝罪と不戦の碑」の碑文は次の通りである。

*

『中国侵略の日本軍第731部隊は中国で世界の歴史上前例のない国家犯罪を犯した。私達は加害国の市民として、惨い殺され方をした抗日兵士と中国人民および遺族に心から謝罪する。私達はここで誓う：歴史を鑑とし、このような罪を永久に犯さない。』

日本ABC企画委員会 』

*

除幕式の後、全員が陳列館を見学。731遺跡事務所の会議室で、フリーのミュージシャン李金龍さんが来賓のために自ら新しく作詩作曲した歌をうたった。

愛するために

すべては昨日と同じなのに
空はさらに青く
この知り尽くした土地で
あなたの声が聞こえる
平和を愛する心が
しあわせに向かって躍動する
自由な体が悪魔に呪われ
夢ひとつだけ遺した
体に受けた傷を 愛によって解き放ち
大声で呼びかけてほしい
垣根のない友愛を
深い眠りに沈む人たちのために
世界は すべてが愛のためにあるはずだから

深い情感に溢れた歌声が、人々の魂の共感呼んだ。ゆったりとした曲が真っ青な空に吸い込まれて行った。2度とふたたび戦争があってはならない、平和の旗を永遠にたなびかせよう……

(奥村 正雄 訳)



左上写真は開幕式での挨拶、右はインタビューを受けている矢口仁也さん